



全ては子どもたちのために

壁面に掲示してご活用ください

共に歩まん

令和3年10月28日発行

第16号

長野県中信教育事務所



←過去の「共に歩まん」はこちら

生活科 ICTの活用「今度はここを直そうよ」

先生方は、生活科の授業でICT機器をどのように活用しているのでしょうか？今号では、2学年「アルパカさんをおむかえしよう」の単元から、本時の見通しと次の授業の課題をもつ場面での活用を紹介します。

活動の傍らに「前の時間の最後に撮った写真」



学級にお迎えするアルパカさんのために、こぼれにくいエサ箱を作ろうと願っている子どもたち。よくみると傍らにタブレット端末が置かれています。何が写っているのでしょうか？

そこには、前の時間の最後に撮った写真が写っていました。エサがこぼれにくいエサ箱を作ろうと考え、板を取り付けようとしている部分が丸で囲われています。前の時間にやり切ることができなかったことを撮影し、取り組む場所に印をつけていたんですね。それがそのままこの時間のめあてになりました。ICTを活用することでやるべきことが明確で具体的になっています。



活動が終わると「今度の時間はここだね パシャッ」



順調に板を取り付けていった子どもたちでしたが、板と板の間に隙間ができてしまいました。色々を試みますがそこで活動時間が終わってしまいます。するとすかさずタブレット端末を取り出して「今度の時間はここだね」と言いながらパシャッ。記録をすることで今日の成果と次の時間の課題を明確にしています。



振り返りの時間には、自分が撮った写真を見返しながら、紙の学習カードに記入をします。ICTと紙の両方を活用しての振り返りです。自然と「どんなことをやったの?」「ここがうまくいかないんだよね」「次はこれを直そうよ」という言葉が生まれます。写真を介して自分の学びを語り合う姿です。

活動の成果や課題を写真に撮ることで、この時間の自分の取組を確かめることができるし、次の時間のめあてが明確になっているよ。「アルパカさんにはどんな場所が必要なのか考え、工夫して活動することができる」という資質・能力の育成にもつながっているね。

